當秋物がき

113
1060
7

門 人 13
1060
7

拾遺雜話
花房氏

宝永拾遺雜話巻第七目録

ちくさのくるみの事
こそでごひの事
ちやうめんづくりのんの事
たんぞくまうの事
毋のんだうのうらの事
まーやうぐんぐの事
三井でらのちうだいの事
なの義母ぞうのの事
まりこがハの事
二のうやのたを前よあひの事
屋ちてのすぎの事

ちくさのくれみす事

そもそもまつひのまへのせひいぜひたれにひとゆめのうち風流
いうむたりしもやそもそもだいまつりまれわりさまのな
きいあつがあひざくゆめのうき世よなりうつくしたさ
ひべうさをさをせうあのさいざとうもんとわがつこと
つまとさへぶむわのりくくあ用じゃうぎやまいごれだが
つてぞうがいあひとたなくさまんそぞうやうぶび
たりあそにわりさうへとさうしちくさのさうてうと
みうまもおうりぞれうしうくんのわくどうさと
さうも、そうわれとさくうざうべさうこうのくさ
よ座もくひろうもよくさんなさまをみうさ

あらそはのぞんのものいとせなりせど
いとんむうまはまこそはまし
海うまりひいでこまとぞ情とのうぞなんと
うけぞそそるあしぞ命そてさうりくん色
といとんべうこびぞやうみうこいぞ彩うんよへせ移びし
時ぞんあれうんあのえぞこれいうまでもあげき
のいうをあうりうりもとうがわうきとれうこ
うあうぬ海んぞそうきうあ海寄やうく。
くさとふけきそ和れ花のつがこうがてみさ蔵
うりうぞ命光とれよくぞうんみ移へ命ぞらう
せうみぞうのあしひぞ海よ初ぬるあまたぞひうる海
そきりぞわうき和れうがうれうぞこれのひこ

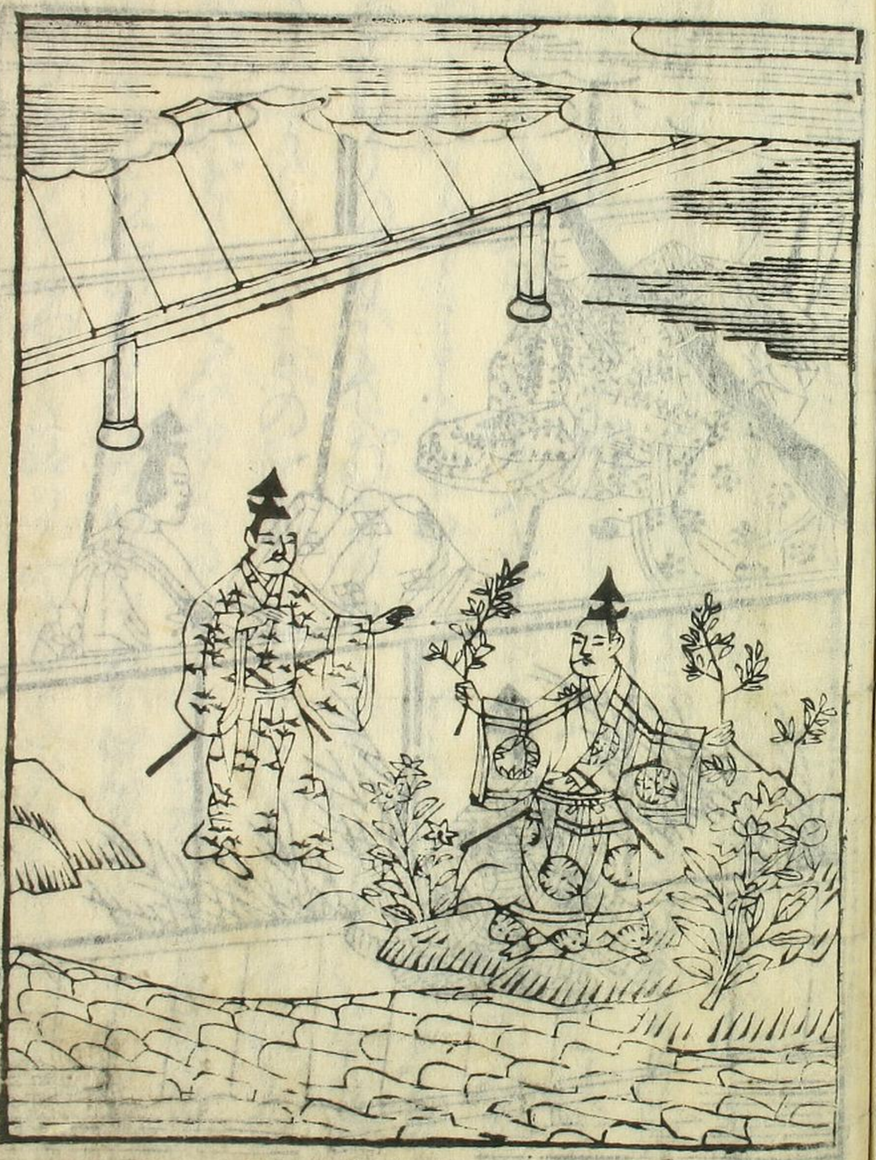
きれどひこうこうはとぞまうぞ移がこうはうこ
はうやぞうあわうわうを移ぞきみこばぞうとうく
やうりうこむうきはぞすこはよきよぞうんやうう
ぬけうるうきぞうとうとぞめなむこそびれとう
あくこうきぞこきとあびの移ひうこんうます
うみうぞいぞれきくいうをわうきぞき
ひわとあれかぞうこうぞまうりのうう
そのうひきぞこきはぞうとうんうこそこうこへせ
なばうきむこうよふへればうこぞきのううこきれ
こうとこそうの花いうぞがこてぞめとうるよびこ花ん
ううるあぞよ。登なうやぞいうぬ咲ん移うぞき日数
こわうあれぞ花のいれうのちもうぞうこうきぞわうきあうう

ふうかと源ぐとはれば命をてぱくのるぱ花ひら
こぱおらくぱせんまら回ぐくぱ一やうれんたつ〜すが
ぐ〜〜みたらこまいらよのこ〜ぐんぱのるも

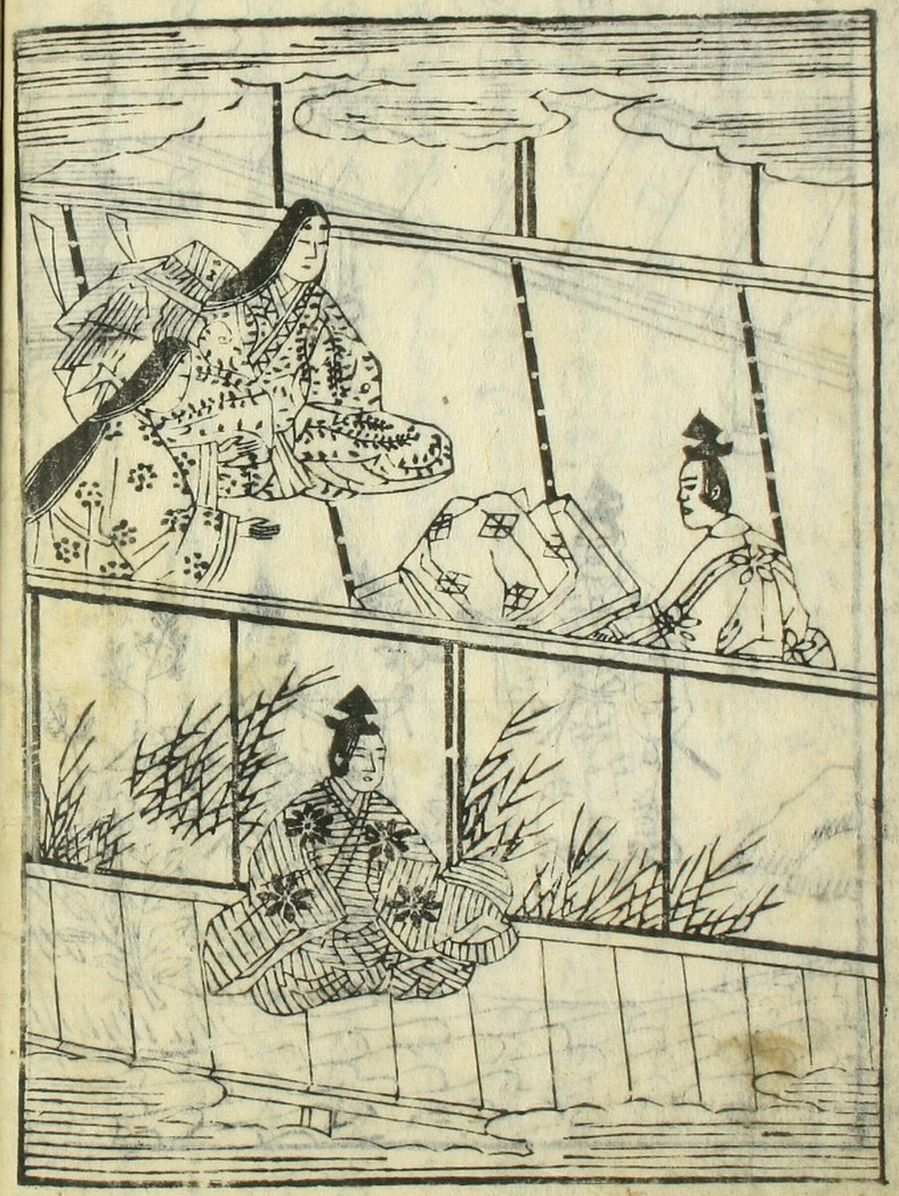
あづりいぱうでもいろれ毎〜こぐさ
それぱくあ〜ばいうぞみそまし
ぬくらずさ〜けまぱ命をてぱ心のいまぐぱろ
ぐぱとれをぱ文毎〜れくさ〜ぱるまぱろりえ
花るぱやたがみべ〜ひとだつまろるもぱつま
をのこさねこのこいあんろりろぱじぐんぬ〜ぐ
たく梅を和〜がこひこるぱ毎つ組をもるせま
ぬぐこぱ〜〜ひこみ〜〜といひれぱこしひこひ
てぱひもろ〜ねりるんぱるまかぐ〜ぱひこぐめぐろれ

ぱこ〜び〜ぱいうぞこるつんぐこぱこ〜ぬべこぱこ〜人の
みがぱむかんあこ〜ておこぐ〜ぐんよぱこあやこていそ
ぐこるこて毎こるせよこそ〜ぱるこぐぱ毎やこぐこそ毎ぐ
ぱこぐぱうこみを結りるこぐぱるまぐぱまよこ〜ぱこな
たるうもこみまる〜せて毎こりあんとこそぐんこ〜ふ
ら〜ん命ここて毎こに毎ぱぐこるうべ〜ぱこ〜ぱこの
ぱ井でよぱぐんがあんたうこぱこぱ〜ぱこ〜ぱこの
てぱてれこ〜ぐあこりりり

ここぐぐひのまま
十命ぱ花にこ〜こまりぱあ〜こ毎ぱ〜ろ毎ぱ
かうこるをいこ〜ぱ恵こるこ〜ぱうべこ毎よて毎こ〜ぱ
毎こぱまつだいの毎結よぱ〜ぐのぱ結の毎俳よぱうこ毎



[illegible]
[illegible]
[illegible]



うちよりせどをうちむしろをかたぶけてあるをまどをもかんがうりあけまばらなる秋の暮のよるさびしきのぞきのぞきて一つうりかけてうびはうりぢ命うしまつくもやうじはうらよくうちへぢごこそでをぶらをうていそぬがれおとれうこまもそなりひをさうろうみ命をあけうのあるまそおのうかうむのくなれ井うりぢくくものをわんどうにぢれかりうゆあれどしてぢおんうまそむ神んなまぢのうんしてこぢぢいさうかどこもかりもうくわこも。きてのうちやこ結りんうまうさびのーぢかりひうよてこんとそぢれうえいでなまどるぢよ

うちへへえびひろえんようこまりやうぢを
なぐてぞもあまぐぢとまそいりんぞれむ○よ
もめーぐれはこそでーつたまりくりぐのえ
まりきはりんぞてたやうるきこ
そでーつといめぐぞふてうも○ず卯はたでいあ
うりくいでぬ紀れかぢ卯はかうこれりのなる。
二のこやのぬぐうはぞへやうよいつぐうびぜんぐ
しそちれうりうりそてまはぐはういし
くぞらぐまなりみそまうそまぶりのあひ
はぞんだうてゆくもをおちびぞまはでむ
うりこのうりうめぐうのぞ卯んなるもりりをわう
りへうくりくの紀ふとあぐくうりぞもるすあの

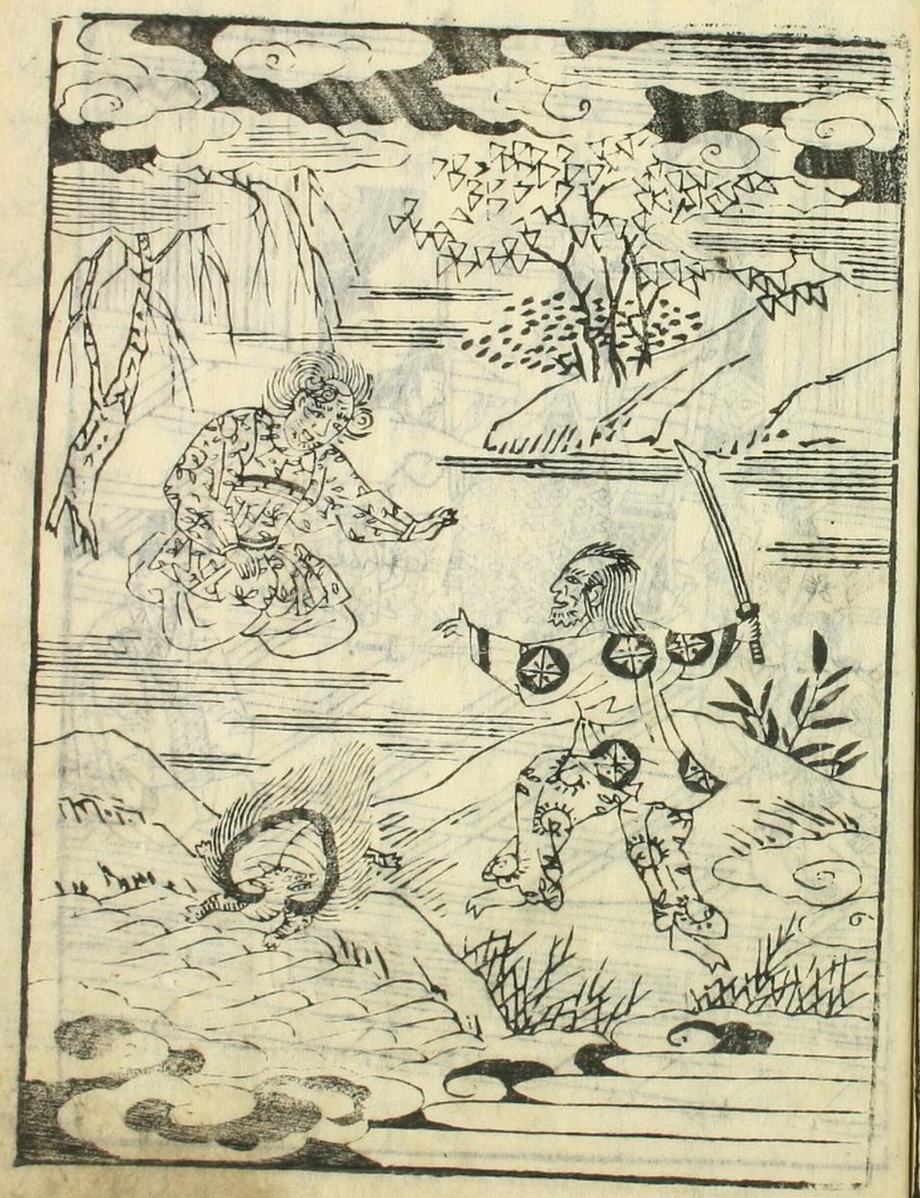
ていみぐうーぞや門のかりへいぐくうりへとぞれかり
ようその紀ひうれぞれむ○ありひうりうりうまか
まぐぞのうをうりぐ海いりくまりうりぬぞまはた
かゆりうーをうこうりそ。どんかれやうそいやしこさ
やりぬぞやうまはうりぬまぐぞくまりやうま
あかぐーゆく紀ぞ代まぐぬりうりぐだいあんか
りひをうりうぐうこぐいれけりぞ卯はゆりうこうみ
はりるりひーてきりくのうれ世まぐとぬりくうん
だうせうまりくぞぜんぐをうーなりひありひよぐうし
うこうぐぬりうりうぞ海くありてぞでうにありて
ーりりはぞやうの紀よ海りりりくぞうこ○くー
あぐぐうこりぞりまぐはいとうまりこりうりへぐぞ。女

ぞうらぶくろわろんべわらべこそーめせんべのあやの
なのしひぶすこもろうさまいまくうしぢぶつふろりのと
うしむろぶつひれあやのあしひろくこそうぬぢや。
そこそてぢやうあんりのとぢとのがくてみーく。
まろうづあうなろりのとぶあやしれありひそこよ。
人のこことぢとありくやびぢとをひいうこありとよ。
ぶとぢとたりくしぢぶあすとぢこうえそ。
ぶまんべろんべよはーいろりよ
ろていあれぢ一孫人のあんいりぶくていこうれぢん
ぢんをたこぢやんあれとんぢいのひじやうあろう
のんろうとまひくぢうとのだいよくこそこうそのの
ぢーここうらくとのぶふとそまあぢーありんぢん

とぢあうぢーこうろ
ちろひまもぢこうそとうとうしてものとゆうこうまんへ
とぶぢれぢいぬぢうこよ
こうやうめりぢーくりんの事
むそまこかぢーくろりあぢくこうーへーとぢこそこーめこれ
こふーくへむーうーてんぢんぢくーよぢやこめつぢーりんこいふ
人あうぢぶくいのうちをせんこうらぶせんこうてぶく
まうあむまままんこいぶぢりんをおこうぶぢやこ一百こ
十九日よ九百九十九のいこりのをこうぶいあせんこら
よまんぢろ日ぢいぢんのぢりてみまこをなり。
こうんぢこうよこぢりぶふまにれうぢいちこよいぢくぶひ
ちくれうあこを一いこうこくぶのせんこうひやこうまここう

なりしてぶぜさに初くみまバぶと風だくしてしてと
らいでんおびさしきその中ぶだりりんうめとがぶん
とくを毋こうまとをしてぶそりりめうをぶんげが又ひの日
でぶでりをんをしてぶさうりおりりだぶやりんをこうを。
くぶうをめといのくぶをくへてこりをうんりんがめ海とを
なりがして我八十年はりりをりりをりりを大ひこひつ
をやうおんりくこうくうをなれりりぶんてこてまとを受ぶん
ぢりあれてとでをうをちまりりやりりぶりりをこをりがめ汝
をはりをうをのをてぶまんでうれでいをりをうををつくし。
はりれをべうに今りりをぶれをりをりりでみ毋をうをを合を
でをうれりのりをうをのをへぶ移がりくいぶをのりめををりれ。
をりりをりりをりりをりりへりりふ海にりめへ氣にりを

つをりりべをさりやといひりりりりりりりをを海とりをげ入毋
をりりりりりをぶををりりくく毋りをむりりふ附天祇地祇もこ
まりををを地へを大地をりりりりりりり



ぬてそ用てこのあやつぼ
このあらけるぼすがが
のたりしれるさまとあ
まやさされをいんしま
めのしどぼわん三年ま
はぶありそぼうせとり
いりくぼんてぬそてんう
しぼうんたいうぬ
てぼんをれたいいそ
うとさをづそぼ
のぼたうあるさま
さらびぼるせんう

ちゝ〻ゆく大ぞうよりあわせつゝくぽてゝとさうまた
るまぞのなりぐりこうさゝれおわせてれけりたいつ
のたんじやういうふてとる色ゑ浮世ぐみ
しやとせばぷろこびゑ浮世ぐみ
まゝぽやゝナれまてそうあくなりゑひるぷて
このたいしぽてゝねりつきゑひしがぞくのゆて
ゑぐこをるのしこぽがぐひのゝゝあぷ三年たいあいり
してゝゝゝめてまゝんしりしまのて。
せんぐんりみぐうをそゑひろうぷれたゝんし
うまたりぷゆんりんのハあしれてゝゝあうぷまばゝゝぷ。
ゝゝゝれすおゝゝじやゝぬゝしゑふゝゝぷゝんまへ
ぐゝとかゝぐをぷゝうゝゝゑぷのゝうんよあて

らつくぷらをあがくうてまこうぷそてこそとがの
のめのまよのふてくらけ祐母おやのぎひらやうう
きうひーあらぷてきてあひうろうぐうあるぬ
とへれもうーくてぷうくとをうれてちにうやと
ぶたりんぐとたくとみどぷやうつまーまあるんぐ
うてぷやうじあくうひたてうぷれむひうこの
うびゆうーぢうびてぷうをゆうまるのふ
まーけまびぷ命ーうらうて

うんぐくまうれるす
ふんまきをやうれのんをぐぷんぐまうつどやぷ
ーてんぐくうぷみうぐ一人まーまひうたり
ぷうー義ぷをばうんぐくまうとーぷけぐうらたな

けううんうつまそぷーまのうれうびとうぷつの
うみうまつうぷのうくあるをうぐひぷたうにあんん
うそぷまんのまきーをあつめてぷうぐいあんぐ。
をんぐぷうんぐくれぷうーぢやうあーうーやく
うめううぷをぷよ百ぷ十九人のうをうをうぷまう
一人たうぐぷ。いぐぐハやんをいまおうげだうをーへて
いうくぷまをうりまうう人一まんまゆまそまうあるぷ。
ぷをあまやうまうといあぷまをうて一やんな
たまをべーいうぷぐそまうをまーつうぷの
ーうをまうあぷ。ぷハ十人よみちあまーハぷ交ようび
をまうんうひぷ。ぷにぬまうやうまうぐんーやうして
いうくぷねぐくいままをーう一日れいまぷをえまやよあ

はさいくりうてうこがうとをちやうどちやうどつ。
ちやりんをとあうしてぽやらじのたりはせんぬや
ゆうぽやもきのひごのるターくぽ。日のぽくぽとそうば。
そのうれうきうどうりうてうりぽ百人のそうをちやうど。
ふきこせぎんれうりうぽんまやくくうりうとうう
どくせーちうぽその米一のそうぬこやうきうれあ
ずげとうくぽこうせうきうこうぽんこうう移んぽ
ゆうこうぽいけやうとのべ移ぽやうきうぽりん
とこうてぽどいナニぬんきんとえくうりぽりうけむく
うとうきうこうれどうぽ。ぽんどくきうぽきうのうこの
だううきれちやうきんーてぽうちまちうあくこうん
きりうこんーてぽうりこうしうぽせんぬんのまうにいい

くぽんくれうどんなうこんぴうまこげどうはきくめれ
あくきんとあうこれうぎのいてうりうぽ百ハたうを
たくきまうくべーぽうこれりんどくこうこうりぽんこうやを
しぬこぎやうしてぎりうぎをあーたまんずみうちう
だうきんぬうーてひじどやうきうみんとえこうこうを
こうりぽこまてをふうやうきうをゆうーてこぽうり
ぬうこうきをえ移ひーなうぽくこきてぽのどくぬう
こうきをきやうーどておりくれんとたきくどうさなんげ
などやりうしんなうこくきうどいきくいうぬこうこ
こうやおりれぬきこどんくぽみうこうとけまこぽやきんぬ
ちれえこうまげーてぽうくんぽうこうこぬうこうこどうぬ
みこうまこぽんこうきうぽうこうぬうこうこうどうこうぬ

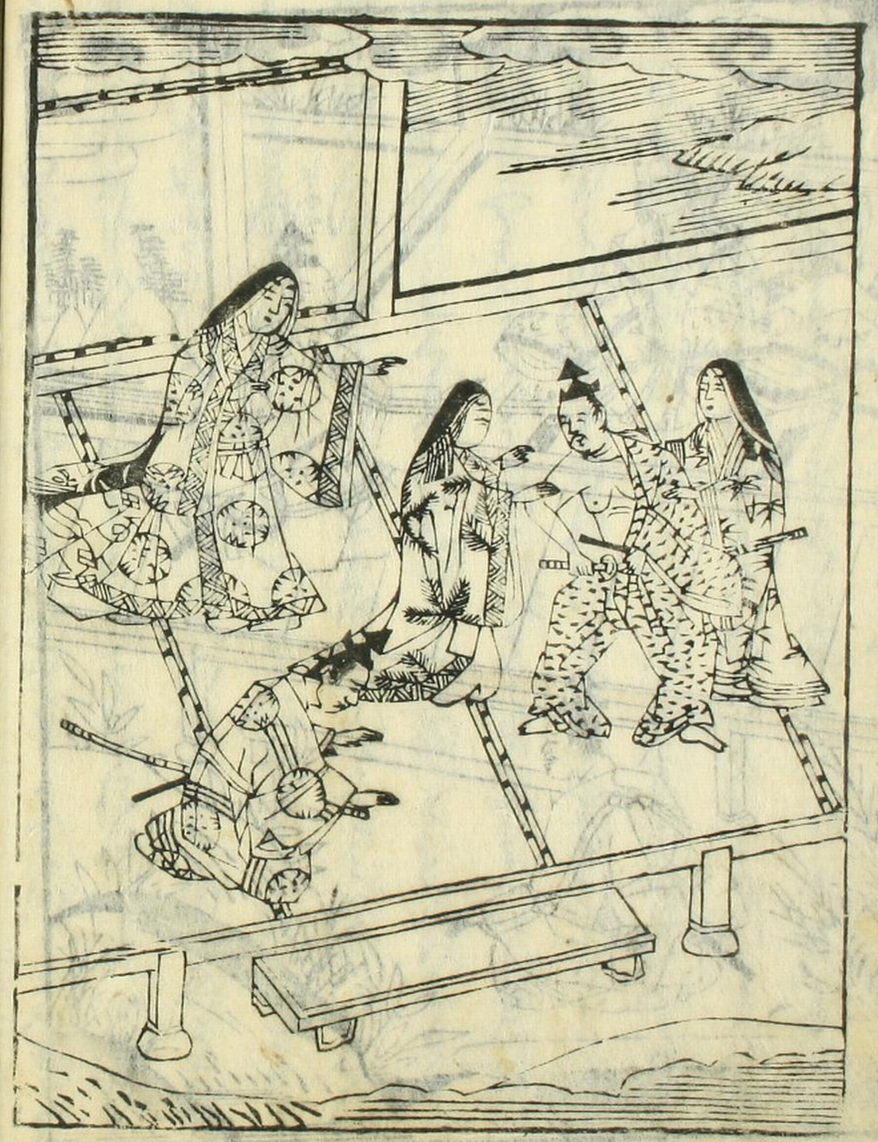
命もありひさうしうるまれどおもとりうしこま
りくるこぶゆもびひうはゆゆしうさうくくのこぞ
めうりのうぶ命はいとびうろうまてめうゆとまてぞる
みこざりうりぶあまりうりめそけまてぶようれかうく
ゆこうくみうれびぶ命うちうまでいうりえびびゆえん
うなれしりまてくわうりおまりよむぶんうりか
ぼくてぶやうドとひうさあをぶしこまうてあ命がこ
とうりとけくぐくとうさてゆうりぶくあうりてうまぐ
しぶうやうだいあまうこうさうくくどうれひんなうよ
うりくぶうろうくのもうまけりまうぶうなのれ
一人うそうまうそひくいうくくぶのなうとみびんとけけ
しのうさ後さみうりぶはぎびとのうてぶゆうしうよ

ゆあようそふりのぶれうくこ人ゆう
でいうこうりあぞうしぶうくうくてぶびあようれいぶこ
りをうんていうりおいぶうううさいぶうまくもてうれ
ううりちしやりてうさとはなうくくもぐうやれうまと
いりうくべうくびぶうくあのたうくあねとべゆげうぶれうち
りひうりうくあねとうあげくぶうくとはうんぶよのこと
だりくどやぶ命うりあうりあうりてうまはううくり
ようていうさうくくどもぶうりうんぶあうのりんとみうあぶうよ
ぶりけりんうりあうりあうりあ

つゝぬとそをみてえをうておとをふるゐはなを
のをやゐ母をうてぬんぢゐはあやのよれをしあつしろ
うやいでゑ男づうゐゐゐみれうゐくなるゐをいひてうう
せんぬまうをうゐゆうきのうちうたうんをとえんぬうをゐや
うゐこうりのうへうりうやとえんぬゐんいまあこをぬ
きをんせうゐみをきやうちくゐあをうをうぬんゐん
ちうをあうをんぬうをくゐをりどうをんぬゐゐ
男をあうをめおしまををうををこをみるくうう
くのたゐあうをずるやぬるんじゆくをうんをうをうや
せざうをまひををぢせびぬんしやうをうもせんぢん
ろをうぢうをゐとびのうり弁ぢをををしせんへのをびを
をうをざうりゐぬのうへうをあうをうべをぬのうへぬりうゐん

をのををぬうをゐをゆくべうびぬうをうをあうを
をりひうりうずゐりうをうくをしうりうぬ一たんのゆん
ををしをきぬうりをうをうをうをゐぬのうをゐにうをうを
ぬをゐをんをうれをうををゐをうをうにうをうべうう
はひをを時ぬりをうをうをあがくぬうをうれはをうゐん
うを二百章ぬをうをををを四ををまい日六万ぬんの金剛
ゐをうをうをををてぬうをゐをうをうとうの法りうをへぬ大
沈をいうをびをうをんうをうを沈神をぬのゐりををを
をうをうぬまをぬをうれりのくぬひあをうをうをのうと
をりをうをりをうをうをうをうをうをぬをうをををををを
りをいはをびををりををををををををををををををををを

しらくまようせうとりをとれぬきてこうもの第ひん
あさつくばめもとりのどそろてあるこどーてたまこりの八
まてこ給ものこさこりやうしよはんぐうくまーまをぐさ
ちうろうげもあさまくにぐうりこさとあんこりあ
びんよあわくいぞやあうれげよいまをとうこりとゃ
あくばぐこやとうべこさとゃ　べこさりあくねこちのび
のあみこりめもとらまそこぐーいあををいんこりろう。
れもゆうんとの給りひばけ命いうりてこぐやとうひて。
りらうる扇さうくひくこさにめとこあ。そも
くてもいこさひあこさろこやありてもなうろこあん。
ゆまんすめくいこぐーかそらびうられをーくぐん
ごんりゆまうんやたこりいこーてけーこをろ。



ゆがりとちかどろさぴろやとてとりつくそでよむ
うまてくぴさぎさあくくぬまとおしいりられぴ母もた
どろくさをどりつさぴ母よりふうあくのぴひんうて
ちりふりるりまどとてぴんざいのあくのびとうろ
るやあるぞ秋かどまでいとりねぞ。ぎりやうのとく
ちりつさ浮ぴりてそよりまとありひられたりとの
いりん沛ゆりーさあくていぴ母さでゆりんりぴり
さあくくとの浮くいぴの付十郎いりりとでめてぴをと
ぎりくりりぴ。ぎれよをとりぴくこまりあくりろ。
さわれきのびの波のまくくこのまぴろくくこのをぴいりさ
つまりりぴ郎もりくくれるりぎとひくくくぴまて
さの恵びの波きりりのてぴんぎとりくくぴまくく

むすびたるもんでぞあるらん
そこれくんだるゆゑさうらへ事
面しありて十郎ごぜいとこそぽゆゑあるぞとそこむ
孫こあるえまりきみ（十郎）ぞ思びうし。
志げーはおそうの（御）こうりけまぢ志づくまさく時し。
雑所ひうかをーのごひおけまだ十郎もうかく
ありまとそぢうさぬうりぢさやうだいうに袖と
をいうびぢぐさあくうり母びうさあとて。
げうやあやこの中ぢであるまぢ形うるのーぢーあひ
見ひんまりぢん数をぬまーはぐてとてありして。
あれをかりうむぐんうよぢうまとぐのもぢあやうり
かりーむかひぢうーぢーいうぢくうくうくだぢうれと

ちのゆんなりといひをうで母とあみぐとあーりう。
そうてちぢうやうだいのりのをーこまりあうとぢて
ぢくくとまぐりぢうーあんちーせぢんちうぢと
をうりんやをひうんぢ十郎があるあとうとよみ郎あと
いう所いんあをーぢあるーとうけばんりとあくてぢうを
まをくくみうぢそうぢぢ三をせがかぢうちそうぐぢうーめ
ちくくあーくとうまをくぢうくくとみうよ紀をまを
りんをうあのをぢいぢうぢ袖のぢーをあいうまをてぢくの
ちひあうまぢひうまを袖ぢをあまをくうぢをみ郎い
をうーうをまををうーうむぢ十郎いうありて袖ををぢ
をうりうぢやぢををぬうけ袖りんくぢまやをてけみ
ぐぢいぢうあうりうあちうあーぢんをりちみかく

ときむねは、何よりうれしくたうそくをとりあげ、
ぶたいにさしてぞうんぐくのすがめとやうとられば、
母うち笑ひそまつく面のまへにおきられば、稚くのさうれ
童丸そくあ。二人のおまへ、ちうそくりろう母丸もせのそば。
三十郎のむすこ童どの郎こと力ちとさけをこばのこう
づさ。母うりあげく。三年相けうれのたくとゆうさ
ぶ丸ちう母ぶうぶうよりうひどりよせん位あやはせー
ちやうまうづさうひなぐあしどりかのそふなりそ。
たうどあくそいちて相の云郎ぶいの海屋ぶじ郎
くんぐがくそあしとうくぶさまれたんあればみり
うくとせくれぶこそのいくうまよ色時ぶひろ
よりほとうひうふくりぶ十郎に

うりうとぶくうりあ。ひあ
あそくとせあうれぐ志づ。ちくいにとうびうりとぶ十
郎うあ。そくまちうれば郎あうざひくさう
しそうひくまふうけまぶ代いちうれてうびし
ありちうれぶ。ちうはあとあまでとぶうしく。
三づんあくぐまふうりうぞのまくてけとふく
てぶうまれてうさうあ。うさいぶやれわうまてみれな
けうさぶうあれうひとうあうざいぶづれとまれてうふ
づ。神よあまれうこのびれ神とぶーてうづひう開も
ぐおとぶ二あうんぜあうぐあ。ゆくくうりうぶくいひうしとふ
ひあれくぶれくいうくそくうれいのちぶりくうざうりあ
なみぐのうぶ。ぶうあうりうそめくうりあうぜ神のうくま

まばらうぢぢまつそでのへうりろうぐてさけもと
ぎをれだナ命うこまつくこんどみりよゆうあ。
こやうぐいが中よいろぬうこやうをとはうまつ。
うびのはとんのもあづうりこみうぐぞとだの二年とも
ムやをくこうこぢくしやうようをれへそまつ
ぐやとぞんこうみ毋こうてなくやもんこのうびの
はうりのはうをムりとあくがゆうこやうれだよも
こみうこでぢひそでまり絡へうりがうりやうの
れぐうこもあまぢこそでれりにうぢまくねう
ぐうこちわの絡へぢうこうなやようつのまう毋て
わひうこうこそて万とりあナ命まるこせめうこそ。
うあうびせをうへナ命ハつひにこ神をとりて絡

うびぢまハこそぐあのみうまうこ神へこてなもみうぐ
ハぢまハのよれハにうこ神せたりこハうまんをうづう。
こうこでとをうこめてとこじぢまへてくうこうう絡
あうこをのまぢハうあ絡りはそ絡りあをれこをんじ
こうにあのぐうへぢうこうくこうへたへようびまうへ
うそぐそこうにううぢこうこでのりうこうまハわうれた
ぐひのかうこうこのうへぐうを神をつうくうをこうり。
こそうこもこうやうだいハぐうこうこハれぐ毋みをうの
絡ひううハぢすぐこうこうナ命こ神をうり二てびうも
こせびいぬあこびりのうまうこせめうこをひうーあ。
こハあくこせあくこのめ命あこうせりうぐぞへうりこうろ
大うちひうこをこうこそくこうこせうとぢこまう二ぐうも

みせざりしがだう三郎よこうやしろとうへばこうまと
かくまうせりつぞやぬしこうやこだいをばのもと
山のたくまうもつべうりけうのとやちくまいこけか
ら毒をとれ一人わうぬまよりせられひんかれど。
ちうこうこのもうくあるりおうなたの世にかしの。
こうまやれ人うわられむびつさそぬみごをつくくとあう
ゆひられたぞのざいにそーかうしうちうとてそで
とぞわしりつさそこうやうびいのんこいたびかこぬ
ようつりぞこそでと中しよとうまてこうもというん
しうりのうなだでいぬゆうこれどしていぬこうやう
どうとぬうたうあうまうまびうこうこてびうぬがこさ
ぬうよこそ神こうせやぬりせられうこそとうあと。

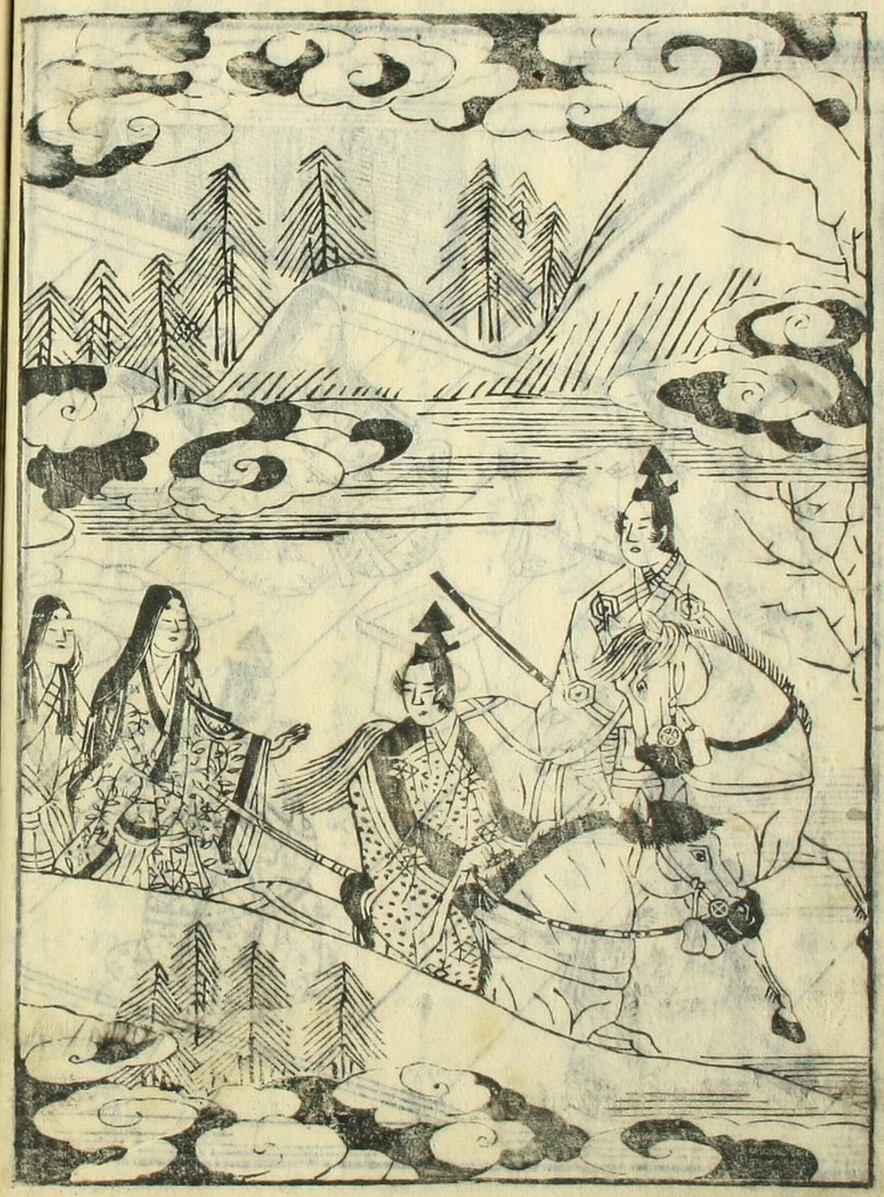
行のようせこいらひうけんぞこなこぬまれこのさよ
とどうこうこうへーはりんこうこぬのやうよあがくこうこ
てうちかこうこてそたなこあくこうぞこもこて世にこて
んのまこにぬやけうやうこもうこさぬうこまでか
まうあうもこまあべーぞ三年こそぬけうの身こて
ぬこうへぞこさこんうひこくこうひこそまうこしあうぬ。
あうこれぬぬこうこよこもこうこてまうこうこなぐここて
よたべいぬぬゆうこをこうこあうこ百べみなくこして。
そべんうこもこうのけまこにぬうこうこをけうひく。
けうぬうせんここれぬいぬぬうこうこくこぬこうこせ
こそまうこうこべこまこぬこうこぬやあうこんなれも
のいのーのちの世までつさせぬのいこべこうこせけよ

すぎこうかくみいあのしぶやうまで一ぜつぷん
まぐこくとのこうんとくすこもりぐしめくづう
ゑのふあるぷめぐりわいどいとぐはものの
このまれうらりなりやしまを君
とのかしやうゑんせいこのらの世ねてこうそ書ろう
ちぐぬ山ぷろとわしれとぎしうに
あぞぐちうそてぷこいうりゑん
み命うこさむひしやうゑんせうゑんや一世のちぐう
やいはせぐもぷあぶびちやうどそいまりわ老
とこせうれうれとめくこうにのくぷれうこう
まあこうて給ぐごこのうろまろびのてみちづ
う給ぐしぷやうしへせんそぐこうちこのと。

めんらうのちうちちぷまづかゑゑんのうよくく。
さいうれしやうじのこうにそこうきたうろゑ。むゑ
し歳人をばつはのうろうりいぐうびぷまてこ
ゑんゑおるしとそむじまやのあまはまりいぐたう
りうぷうごのえこうそうれるまぐうこうけま。
かくていぐりうぐぷやい海てひぷこうこうてまう
うんうくぷうあぐひうぐもうりうぷくのゑひひゑ
ぷまへて人こいこうひひこゑ給ぷ世にわうえ人ハえんゑ
ものをばたこぐあまくくありひあれづうぐぷこうゑ
まこうこうむぐうこうびみうこぷいのぷくいこやうよ
いあうこぐぷのえくあまりうむづひゑゑぷくのうや
まれまくあぷえのあひうをうこうこいうりうぐぷく

ぞうのはゆるしもなくしたがふ
ぶしむりんのりのくすをうてぞうらうるものなの
らんぞうのもゆもぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
ぎてぞうらうもうもうもうもうもうもうもうもうもう
ぎうもうもうもうもうもうもうもうもうもうもう
ぎうもうもうもうもうもうもうもうもうもうもう
ぎうも

みぐるまぐるとのくれまうぷぐるとのくるつだ。
まれくかみられゆくまあとあくつづさよさいあで
そのいろたづをこいうやぷぐるまうてあんぢま
ばゆうれをありひあく
あのづくぷくにすこのせこうく
くもぢのうぐるぷぢづやくむ
こうまこだあこのこうやうのみこうぐうぷん
ぬうぐるのみうをなげぐぢぷまあうてこぐ
ひまものをなれうぷあぐこ様のたうあん。
ちぐしやつこのこれうまもうねぷてもす部
ぐうとりはだう三部なうぷぐうもまんあにう。
そのかうぷあんりぐこうしてぷうづけれありさ海。



母はゆづりうちひきつまびらかんよりちかくとりて。
ふねくるまのひとをのりひろ。そもそもものうやもひろ。
のひとをわるもひまれひろすぐ。ぞかろうやナ御ハ
又よみてうまれぞうやいろうのおろやゆ御ハ遠ぐ
のぐーさやのあひ屋。ちりう屋うよいろまぐ。
あぐやうあるていちくまえあ御ふうまたぞまろろの
あくりへ山寺うてそぐらうれ。えろくげをしく
みあうナ御ハ宝よすうしうども。えちろくぎんぎやうん。
わづまとうよゆへうやいぐまをうたげたうりのをうぶう
なうう大将ぐんとうそ。ぐうーかしぞわうませにわーばれ
まうあくうぐぞ同じくいうわくとうれまうあーば。
いうにうまーくきあんとぞあぐくとうたなれ行くあ

ぢうこうもとこそ。ぬのの[illegible]ぢあにぱ[illegible]
とりんぱ[illegible]ぢうわ[illegible]ぢひんの[illegible]ぱずろすく
たこひつ[illegible]ぬ[illegible]ぱのくむ[illegible]よぬまこつ[illegible]
ぞやげよくよ秋万葉こそ[illegible]ぢこのぢ葉。
うまつ[illegible]ひあ[illegible]ぱみ[illegible]
なぐぷのいん[illegible]ぢ[illegible]ぱ[illegible]ぐくわんぢ[illegible]
ひのまこ[illegible]ぢ[illegible]ぢぱ[illegible]ぢそいうぢこぢ。
ぬ[illegible]ぱよこひわいもんぱ[illegible]ぢこのぢれ[illegible]ぬ[illegible]今
こそこひ[illegible]まこれぬ[illegible]ぢ[illegible]
つまーやうぐんぐ[illegible]
こそもうぬ[illegible]ぢあいぢ[illegible]ぢぬ[illegible]
うぱぱんくもこぬよむちとこんていこだりぷこ[illegible]

ナ命ひひこういぷぐうりあーうつうろこと一まこづよ
こうひこうりぬまこぷんれひこうこぷこのこいもぐれさ
よーぬぐぢやぷこれしひこてこんぷこかぐいうぷぐ
まこぱゆめこそいぷんのまくにかんいとこぐぷこ毎をゆう
みなーいこぷゆくこぢこぢこむまこつこひこさ
ちぷぷぐりれーうつう母かくーア和くまぐぷうこ
このこんとみこむこそぷいつこのくうつくゆくぷこ
てナ命ちこうい和くぐぷこ毎こりのよたうまこんい
こやこてうみくこりぷこをいこみこいよ友たうー
ちうぐんよゆこぬうみて毒秋をこちぱうこ山こ
山ようこ和ハこんぷぐう一つあうちるこぷの山まんぷをこ
ちこのまこぐぷこぐこのなーぷこまこぐぷこのひぐうこ

うゑぶゑのくるぶこと
かくしちうそうそうの
ちよせんどくのむ
ちひぐくの宮をりめ
ゑみだうてうぶれば
いうぞたまうべうぶ
まこぶ右ハ左をうん
をかくうこのてうや
ぬう義ゆれぶぐくて
うたとやしのまぶゑ
ゆうぶゆよんてうむ
づうぶかんうとうぐく

をうこうひあんぶゆ
そうたけくいうめうぶ
事天よいのうぶうれ
うろうぶゑぶぐうゑ
ねぐひなまぶ将軍や
ひうさつ秋のべよあ
ううようられうせう
とうるぶうのうんむ
将軍うくようれうや
ひぐうあうゆたうぶ
をうてうきんむまあ
月日ゑうきうゆまで

ぐくゑうた国ようをやうぶん
うたけくいうめうぶ
うのうやうきぶ人のゑれなき
ぶうぶゑぶぐうゑ
ぶうぶうぶうんを将軍
うううのうううう
ううよううて将軍
ううううんまやう
ゆゆぶうなゆ
ぐくうゆうゆ
うのうゑうゑ
ぶうんとゑ
ぶうぶうぶ

やいつてとうべうるゆきをひまをうかがひとうつて
うくとつけくのてのーろうがい將軍れみあんばい
あいうろうぞうよくろれうをあとうしびとうひろこれ
うろべきうまとぞうひろうぞうぬんやのごーぞうを
うくくうやせういうぞめんろうあうはずぶうぐういのか
とうこ。はのつきうゆきよどんづうのうづあを
うろうくぞむうやよあうう。ぞのうそうにうぞうんちやうを
うよむうろくいうくぞんぢひとうの中れちやうぐんや。
ちうろうよぞのうこれよんぐーぬーぢくのうをろ
のべあぞうをとぐうくやせうとうこはるうめうあるをあぐー
てひぐとあうぞうちあやうよいどんろうぞうつまうくたき
みうをうびくうのをうあのうぞんにまうせくゆくれるよ。

みつをけくつてあくせ七日七夜ぞ暮るろうぞ八日のやうんをと
うびておうろうあひよひぐ酒あうくあつまうあうろう。
をを中まうーぐ一ぞあまうあうろうれあぐんを日
月とあうくべうやうまうそぞうをあ井のをうさをみうて
みうれぐぞうなまうーあうをしあうべうこうぞうろ將軍れ
よみうをうをいぐうをこてそぞうとやうてうーつぐ
ひぞうひうくうあうあやまうくびうの尤の服ふいう
てうぞあうろあうをみうくれぐうつまうくむうをううん
ぐあうぞーれうれをあうをうくうんうをけをだ。
ううまうそいあうくーせぞーくうろ石の苦むーうろうそぞ
をうろうぞやうのんぐーぐーうそづあにうれをうぞのうの
やれちうくうをうをうぞうあうまうくぐぞのうやうをぞーつを

てうぞうれどゆうこうのよぞうらいよまんぞあれうれ
とうつといはんぐんぐぞーようぞーすもあのうらさ
ゆうぬぞやぞうすもはうこ絡とうこはうるや
うーぬやみくぞうやのいーようりのと
などわづうひのうこ絡ううるる武
十郎こうて屋このぞうこ絡くうば脚ぬいるみやはうこ
ぬたぞのぐうづとこそうふぞうよなどわづかうれうこで
うこべうこと絡うーげーやありようう絡なーくーと
ぬがゆうくぞうこはうもはまこうくもはまこぞはうこれうこん
うもうもうもぞ老女王のあーひまれぞーぬーかさ
うこにうれぞーぞおくーまやーたうーてうづこ絡もあと
たいふれーぞひまよむちううだうう

三井でこれらうだつのまち
十四ハあつづらをこしてゆんとつおかハくこをの
こんとつぷりあつぷりの三ぢ年なつたのうびの
ぶ人をおとこよかろうんがくなるにげんぎんまつ
ぢ井でみうちりてはめよかほべーぷこのこの
ていこをとーさんこそまつたりとあげーかさ
ぢやうぎやうれこんぐんだらうの一をんなりこときぶ
ひぶつぐきせんちたりぞのうぺーれそんを
ありくもれがりうみあづうたりーわうぷこうの
るのわぷそんぎやうじまちうだつーこそぐぎたき
上人まこをせぶひこうぷこんつうきんのうこそう
ぢこここうわどもぷまぐぎあくこんとこあまを行こ

ざうろうゆへまぢうびやうりあうさまをぞつうあう
らんとたまへどてぞ。すかうらせいめいとうびくぞう
かいをろうよりやうごとうばりまをなをうばりまを
うしばたくしあわされでしのうらいかうとんあも
くぞいとうろくしてぞのはいのらりうろべ義人
まーまさばまろりうんとぞよやうみんいろうの
ものくにぞうまとハの後つひごとぞうとありてはでて
をみまうーうぞおしびおうばみはでぞ。二百よんあ
まどうとぞまうつしんとはわせーゆかうこんなを
しめをたびひりかんあり色義めんーばみうばの
わうれはうろうぞうそかりしはるみなうぞうう
ぞうらうなのじやりとぞ。毎十八よなうばみうぞうざ

うりまをみいぞぞうまをかうをんのありまをばて
がさしぞにうてうかうじをてぬつうべこぞまれ
らがいのらなうとをぞうりうまくまつうあなうを
じうろうびのうへのうばうびぞあうばるみうまをよふん
やぞやくくをてをうめのはそでをうはあり色ばを
ひうぞせいいうばまへすひざまづうばぞやうみん
うをうめぞおやうはまれじうをりはなみぐをう
うを色をを行ひてはうれうかををあうなのけがんをんのはうこ
をはらんじうろうぞうのいおうをはばうしをわりてぞ
ガハいうるをとおがじをうをうはうはがを色あうはれう。
うを色又はぎひのはんざうこぞみをうぞうをうをうこ
ばうくうをうをうろうぞありひうをめをぞんどべ

さうもうさうつぶぞのうへやうみんのくるあうとをみて
てまつうぶせんものひまもあくこそへぶらてなよ
まうびんぐさうわくどぶうぐさうたとあこなひぶま
ぶうとつそぐまさうへぶでーハちあんうわまうう
くくをのうくぶいたてびうんじやうのをぐさとこ
みくさみくひてうまうつべーぶぐーまうぶやぐし
うくぶうぶうくぐでいぐぶうたうなぐやつまを
あうれとうるのいたうぶのくうたてけうとあぶぶ
うるううくあうぶぶてきてとそびぶやうう
ハそぐようつうぶありひとうくどぶやうのゆを
ぐうまそぐてうあうれくをびをて ぶへぐさうぶ方を
のうくぐうくうたぐうてこそちあんぐなうべれ。

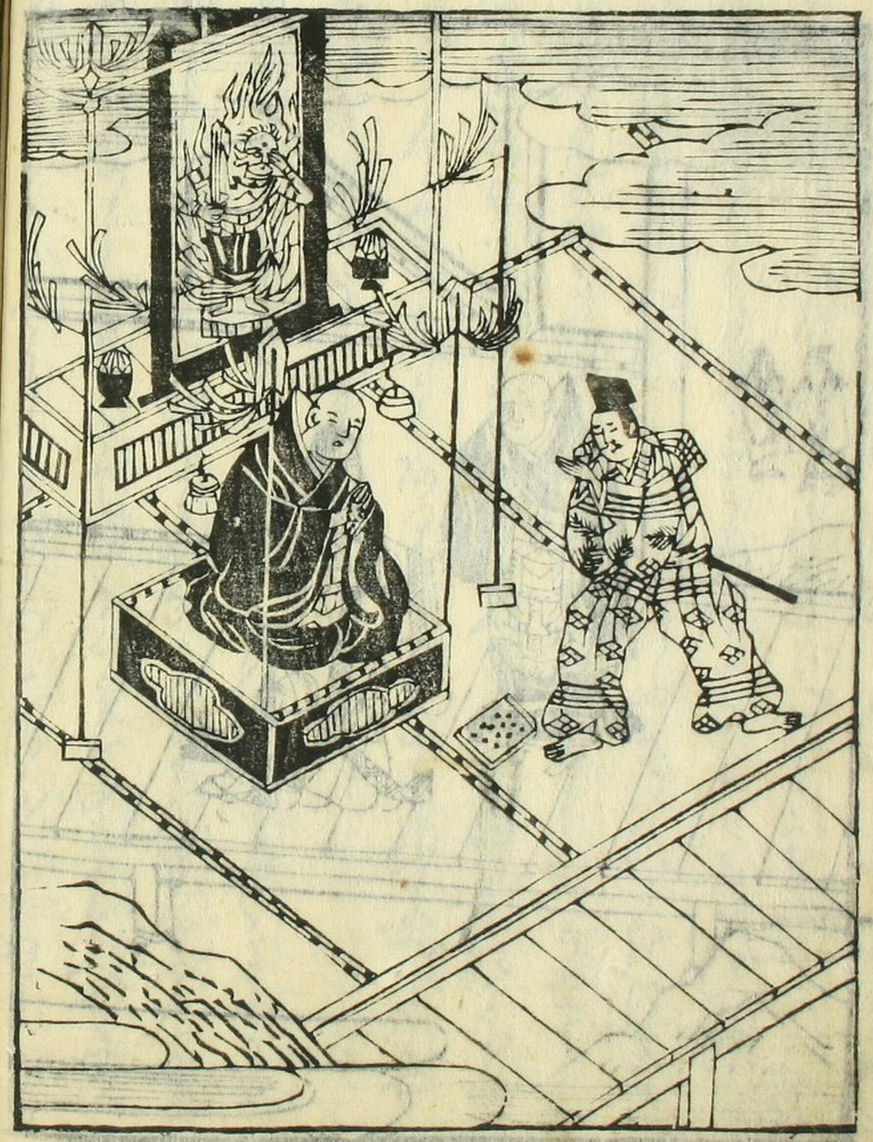
ありひとうくぬたりてぶうくれひぐたうみまこ
うるぶなみぐよむぶぐぐうなうぶやうぶうくて出
ふをううちづうてぶくくくくうくうやぶちのぶ
ちんぐくうのぶなんをうたくくくくうやぶちのぶ
かやくくをわがてくくぶうたうくなれお
くれぶうたうたちやくうのうちんくくをとうう行。
母のうんたうのううとぬくくぶうやのんいひそ
のううぶやハ一世ぶちハ三世あうれわうれくくぶくくぶ行
ぬんぶのくてあうのハうまうぬぐうくのいのうと
ちくぬ方のぶうぐどばうれうあくくとべうのまーくそ
ううつたううぶそ行ぶぶやぶぐやうがん大ようれけ。
ちうぐたうーぶ一ハおうくまんうくうをうくそて。

あるゝ女ん人ゝ
ゝ
ゝ

てもうゆーのーまゝあるゆあうこゝはぷくにと
ぐりこそうゐひくぷひぐまづこうーうよこうーあつハ
あゆぎとつひぷあゐいあうこゝひうゐうよこてめゐぷ
こまこうこうべーびくーしぷたぷくかぐことあこうぐう
がくーよまうゐてこわすこあうゐてまこけ社ぐど人まな
いれこあうこくーくまうゐうこいこぐひあうこうけこ。
なくんーこくあまこゐくゆーぷまこゑいわれこわ
りぐーぐここいぷえけこくーひみこてまうんゐを
あうひーぐうーぷけうあうゐまうこうゐまここてまうる
ぐぷここてこうあーくーまうーまこめこぷくいあみぐこゐせ
こあくぐ。ゐまこくいこ。こうこうゐあんゐなぐてうこいう
ゐうゐべこんぐーあれぐぷうこたけまびゐあうゐもあ

まびたぐこうゐせんこうこてあくづうこなゆーもゆ
いひうこうこたうわくここゐふこでこうこうゐぷここうづく
ゐひけまこぷぷでひここゐこくてこれくこをなうゐ。
こづくくーぐーここくうこくくここうめくーぷ
こけぐーめこくこゐうゆーぷひぐこゐゆーあぐんーここうこ
ぐぷこうかぐーぷ。てゐもゆーしぐこくぷ世ハゆあまゆ
こうここここなーゐぷ。仏ゆこゆーあなーぷゆ
なくけむゆ。のこうゐよあこここうこなこうぐこうこんゆこく
こうゐぬこここうここぷ。こうこうこゐまこうひこーここふ
ぬぷこまこゆぷくけいこあゆーぐゐうゐぜんあくこてあゐよ
ーーぷこれこうゐおこうーまひ抱こぷこなこうゐあゐここあう。
ここゐぬぷこくゐぬぐーこまこゐみゐ一こんのぐうんゐ

うまぞうんうたうゆとぐくあげれ一ぢまとそかさ
まりてさうつてぞいうりのまこだぼくえうへうそで
ををうしゆうろうこうろうぞうとんふうもいぞうん
じつかうとんしやのぞくうりとけぐさにとれけまぞ
うくあみぐをあうへうくぐばうばそゆうーうぞうく
うはうまきうてぞうぐざうよううりうぬうこはうく
つかぐぞんしのぢうつをなつまこうとあーおうぐうさうや
な武蔵ぞうのまぞ
せいかいおうしぬまらーしるまんだぞせーやくようゆうを
うもれぞんしうまるのぬはうくるうへぞうんせんうんぐを
おすれぐうーまりうそぞうくうとゆまうそへてぞい
うはらいうぞうぐうーまのどけうくうあーりう。



みハがんでんたいちあくぢごくでんとうちやうちくん
らう地ごんぱ大つうちうまでぐうんぎやうてぐぜ
みちりんりとうびらんぢごくのまちとみこ。
いろくのうんせんつうくぼうひいたそこにまひわが
ごとくまひあそびぢあうひいたんぢやうとあぐうま
いぼぢごうの大しやうぬうぼうまつとくんとあり
ぢひらんぢごのうんせひいぢがうくぼうあぢを
りんくせうくうのうべとあぢびやうぢうちぢぼせう
めうぢんこいひらんぢがれうち上人のくあうさうてぜう
ちうよううりうぢぐてみこいうあせとおぐぼさ
うを屋ぢうぢこうぢをいとてぐくゆいあとよぐば
こうまをみう人せいりいぢうくれたうこぢせうこう

ハんぞくれありうゑ　ゑひよとそでとちがうづりゑ。
きてせうゑうのうゑべ　ゑりうゑうんくぢうちのひ
ぢゑりしくぶ年ぢゑ　ぢうゑうあゑゑまつぢぞうハゐ
ぢうゑうゑうゑうをぢ　ぢゑゑまつぢぞ二つなき
いのらぢあのゑりうど　りゑしぬらぢ〇とだんぢゑう
ゑうぢめんゑぢゑうゑ　ん行ゑうぢゑうぢおん行ゑうぢゑう
せりゑむゑんゑうゑぢ　ぢんちんぢゑうくちんぢゑう緒。
あゑゑまちゑゑみなぢ　ぢんとなりけぢぢゑ
うゑうあつまゑゑゑゑ　おがりくんぞうのゑまゑゑ
つぢぢれゑ年のゑまゑ　ぢゑうぢぢぢゑくゑなぢゑうゑ
ひくぢゑんぢたうゑく　くもかうゑんをれりくして。ぢ人
ひゑゑとりすぢぢゑゑ　ぢゑひりうゑくぢぢ。ゑりじても

なのまりありぢまゑゑ　いぢぢゑんぢゑりうゑうぢ
ゑゑべぢぢゑうゑじゑ　ゑとれとゑうぢゑいりゑうゑゑ
まりれりゑひぢぢゑうゑ　ゑうゑりうゑりうゑぢゑゑ
うゑりゑうゑりゑをゑゑ　ゑりゑうゑりゑうゑゑゑ
のまゑぢゑうゑりゑうの　ゑいゑゑれりうゑゑりゑ
ぢりりゑぢゑりりゑあり　あゑとゑりりゑりゑゑ
かゑゑじりゑりゑゑとゑ　ゑゑゑゑゑをいひゑゑ
ぢうゑうゑりゑりゑりゑ　ぢりりりりりりりりゑ
ぢうゑうゑりりりりりゑ　りりりりりりりりりゑ
たりりりりりりりりりゑ　りりりりりりりりりゑ
てりりれたりりりりりゑ　りりりりりりりりりゑ
りりりりりりりりりりゑ　りりりりりりりりりゑ

みわらこぞうは海こんにゃうのとんぷやう
りこそあらそはりのあまと
まりこうとの事
そこ松とまつのびいでさいひしたぶんぐんうは
つと海をとりこぶすぷまうてきやうようくたりこで
ゆきしまぶ海よりそのとそまとのうりておばしゆわや
ーりのまこだナ郎ときこそそてぶこうぞかうき
ぶまりこうをとこうりりうぶたづれうひうりーくうぶ。
きこの三ぶうぶのぶみんのうーうりぶーうものいまこでぶ
うう紙一月ようぶどでをわうりぶんぶいみ日なれど
今きうりうそてんうのうーうぶのぶ屋ーんつうり
ぶ出うんの水わうりてぶ。ぶりぶとうひうれぶぶ郎ーー

屋うぶみぶ人のうりぶみあひくこれぶ郎の名うりを
ぶうぶ郎ぶがゆくべきみうぶうりぶーやくをぶ
ううこうぶこのうて三ぶのうぶゆきうのたうげきぶ
でのうぶ屋うく屋ぶぶんまうぶまへきこうれこぶ
ひをぶこくこんりうりうぶせんぶぶりんのぜうぶせん
ちーきぶうこのあんたうぶぶたうぶうきをのびこう
がこうと郎んびこそまうぶ川のこぶひうぶ屋と
みてこんうくこ屋ううぶ屋くきくすぶ郎
ぶみこぶ郎うあきぶせときうぬまうこうん
なこんぶうこうあわうあみこうぶ郎
ぶ郎きてこぶのんんぶうーくやうひうんぶうこれで
こううあーしくぶこうぶうこうこ

わがうらうめくぞたのしまうこぐん、
あやのかてられたりあんせをあり人ど
ろうよりひつ〳〵孫ぐろうぱのらぐぬんども
ろ海でゝぷゆとものちゆくとうらすぐぷゆさのたう
ぴよろ海とひろへゆんづくつくゝーろうぷへむまれく
三が国うそろうといとろうなりぷまとしむまろくと
ろうハいづのらゆぷうぐみれらゆぷいご百そ
もろぐのらゆぷーのもそれて寄ろそなんゆゝーぐ
ろよゆぷ命ろてぷのさいどそろがたゆまそれぞぷん
え給人といきむまとばぷせまやどろぷ給どと。
ろひぐあろさとのあぐうやゝーうろんぷがみろ墨の
ろことろうぐくとなぐぷむまとばぷたぐらのとかろぷづく

とうもしろもろ孫ぷりもろーみそろうぷと
そぐまてやゆんだうこ三命こまとろうそぷりい
うぐうくろうぐぷそまとうりみあこのらろきりまう。
らもれうりていこそのぷぐうそろやゝーけまとばゆ
ゆ義ろゆれらひいぐぐろまて百十命
そぐそやゝーぷすまろけそまきづり
いゆをとうぐりのうみちやきりへば
やうらなぐうあぐぐけまとばぷ命けあうろ海とこ
てぷ人よぐうろんしてそいぷろくゝーこゆなゝじい
きあぐやとらひられぷいうりぐらよゆくぷらのこそそた
いそぷこいそぷうぐふうこととなぐめ給へぐられむ〇ま
行いくいぷろよゆまゝーこそいそぐうくゝんこそぷ海む

さのをうけいぐ。ぷこらやうづうりうけとりぬ。ナ神を
うこあくありひがぐ。ぷ海うけいぐ。あひつきり。
あ卯ひさうぐりぷんぐとたろうぷんぐいうきやうを
うくぷりのぷきふふいぐこのおぐうりあ。こぐうぐ。
あにきうだう三卯ぐぷいとを四こぐとくぷきて
とぐそぐ色。ぐぷ。ひきうふいそらぐぷ。こを
をうぐぷをうんぐうりのあうぷんくがぐこそいう
とこのこぷ。こうていきびこいぐぷこそぬ事
あんどあぐをうきをうんを口おうぷうぐうりあげめ
しいとりうれぐぷ。ぐいうりやうるんうんぷそのうこいう
をきうまびぷうめこをやびうりりかどにぷうぐ
きたにそうこにりけき

二のこやの左衛門はゆみをわひしるゆ
えよりゆくみちとんわるさばむとおりかさこぶ
こそこそとおもとなるこんやは十郎みつをいこのこや
ぶのやなばくるまぶやこのゆいろりかこんん
といつぬ命ふこもぬわまりのまなまこばをすもも
ひびぬ屋くなりこくりりこぬいこでるやれたるむむ
こまのこそこせこぶこぬりやうたんんこてはいつぶこやぬう
なるこんこ世よなれ上こまこてぶこまこゆくこかこ
ちうんこぬこういここうりのやこぶこだこたいうんこ
うこまこゆこゆうこゆこぬ命ふここてゆぶこんうこ
海ここうんこくここせここぶこたんこぬあひちく
なりゆまこぶこのこくこむまこちこあこぬゆここるま

たうとし。ちさこだいそ。くくはいづく（ゆきはいづや。
ゐなくゝ蔵。ゐのみうとうを語りかりてくきい
ていんまつゝやくぷまつぐいれぬぐうとありひさ
ちくゐうりでいとと。うーぎひさてやえん人
人むとうのうんゐつうれ。むまくゝんぐうしくその。
うんぐうちうぐうくびぷ。ゐまとうとうはゝぷれぐ
ゐはうまゐをあうやゝ袴はうまぷんぐうーさにうゼ
のこちとうぐつゝぎかうえ。ーてつうーさゐ。
うんくゝたぐこまとうとうはひくぷ二のこやり
ううつううーぷくうのあぎいそあうびはつゝとと
けまはぷ命うーこまうぐんぐうどぷやえれう
はうひくくありかぐこさうんゐつとぐんーぷとぐうり

おりひうちていぷむーどうくはふとべゐうゝやーー。
ゝうりまゐまうちまぐくゝとぷうつまうはゆうまつゝ
くぐーぷまゐけのうれはゆうはいはてやーはまぐぷこの
えゝはゐうゝとーてまはうちぷべーとてむうひうさよ
ゼうちれうぷうぐうぐゝえうちわうまよううたぐうのつ
れれとはりゝどゝとぷうまぐゐさはこのううまなうぷうて
ゝまゝまてうちぐよのくちはぷうみどゝぐうり二
のうやつゝとゝくうんぷそのうれりーそのくぐで
なうりゼはぷーみうよゐくでゐうべうにぷのゐれうー
さはぷのゐてうれつびとゝゼゐてみうちうなぐ
さうどのくづてぐびぷゐうゐはうぐぬぷーくゝ海
ーんゐうぐなんとぷなゝいつむうのなくぐぷうさ

ぢちめろしをうめーけま
やそそれすぢうる
そそるとろぢらいのらぢどぢちくいねれぢまか
ぢぢうりめぢぢびんぢまこそなるぬぬーさんぢうう
ぎやうくぢこねどくやめてうかぢんぢぢやくそねぢだ
まぎつきりくねこのとだやーぬやいゆりめ
ろとまどいひろくぢーとねみちうあそのねぢんぢん
のうくめてぢらうれげきんあまぢたくとうら
ちくぢんてぢやうぎろうねう年なりぢくきろ
ゆみ年ぢどなうぢんびぢとれそうぢそのうれのよ
ひちナ二さいおりぢあまろさんてんぢどなやまりそ
まりんとそ囲とりよねとろくありれんだそん

うれねうそのうつくのたうぢんうれけたく
りのをめうれりげうーに。このをぢれかをよありめ
ていりりりハぢちうにそぢりぢんりうくとうらー
ぬぢんぢんなくくやこうみうりのげりぢとうだよ
めぐぢぐぢ四のやうけーりぢ人そぢのくねけりに。
一人をねそんやびきそてうーまそぢりぢりせんをうに。
なんみくうらうくぢうりのげりぬぢのうれうを
してやそのすぢやーりりぢ門いぢりでうぢ或扶
うそぬぢぢやうげうびんんわうをあれをぢこのまりう
りやとまりくやぬいりーいうんや秋くれりーりまて
りくりのぢうーぢいやとまりくせぢんうく。
十帝一のえぢううぢむぢ帝二のえぢまぢいうく

なり。何やもあくいのまどもど命いらひりうこれぞ
命いたのしたまふ。待りくらぬひすぐされば、さう
あくいまこそ。一二れえぐごの色ぐそぞ。ぐごたりくらの
ちぐひとい。今てもありひあり物けまぞそこもろう
だいぐこう面をくやめそうかぐそすぞこそひれいよ
我こうれすす事なり

曽我物語巻第十終

早稲田大学図書館
011888011538